

2015年9月17日

ライフステージでみる対人関係 ～ 自分にとって、日々交流したり精神的に依存したりする人とは？ ～ 『ライフデザイン白書 2015年』の調査より

第一生命保険株式会社（社長 渡邊 光一郎）のシンクタンク、株式会社第一生命経済研究所（社長 矢島 良司）では、全国の18～69歳の男女7,256人に対して「今後の生活に関するアンケート調査」を実施し、その分析結果を元に『ライフデザイン白書 2015年』を発刊いたしました。そのうち、本リリースでは、人々にとって日々交流したり精神的に依存したりする人についてたずねた結果を紹介します。

本リリースは、当研究所ホームページにも掲載しています。

URL http://group.dai-ichi-life.co.jp/cgi-bin/dlri/ldi/total.cgi?key1=n_year

《調査結果のポイント》

心配ごとや悩みごとを聞いてくれる人 (P. 2)

- 「末子が未就学」の女性では交流の幅が特に広い

助言やアドバイスをしてくれる人 (P. 3)

- 「子どもを通じての友人」は「末子が小・中学生」の女性が多い

能力や努力を評価してくれる人 (P. 4)

- 「独身(40歳以上)」の男性の46.0%が「誰もいない」と回答

一緒に余暇や休日を楽しむ人 (P. 5)

- 「配偶者」をあげたのは「末子が就学終了」の男性で68.7%、女性で55.5%

今後、人間関係やつきあいを深めていきたい人 (P. 6)

- 「親族」に加え、「友人・知人」をあげた人も多い
- 「独身(40歳以上)」の男性の45.5%が「誰もいない」と回答

各対象として「子ども」をあげた人の割合 (P. 7)

- 女兒が一人でもいる母親は「子ども」をあげる人が多い

＜お問い合わせ先＞

㈱第一生命経済研究所 ライフデザイン研究本部

研究開発室 広報担当（津田・新井）

TEL. 03-5221-4771

FAX. 03-3212-4470

【URL】 <http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/index.html>



《調査実施の背景》

ライフスタイルや価値観が多様化し、情報通信の発達に伴うコミュニケーション環境の大きな変化がある中、人々にとって日々交流したり精神的に依存したりする人、例えば「心配ごとや悩みごとを聞いてくれる人」「能力や努力を評価してくれる人」「助言やアドバイスをしてくれる人」「一緒に余暇や休日を楽しむ人」「今後、人間関係やつきあいを深めていきたい人」はどのような人なのでしょうか。

第一生命経済研究所で実施している「今後の生活に関するアンケート」では、これらについても調査を行っています。同調査は、第一生命経済研究所が人々のライフデザインや生活意識について尋ねているもので、その結果はライフデザイン研究所（現 第一生命経済研究所）が1995年から20年にわたって「ライフデザイン白書」として発行してきました。

本リリースでは、「ライフデザイン白書 2015年」には掲載されていない「対人関係」の設問についてデータを紹介します。

※『ライフデザイン白書 2015年』については、最終頁にご案内があります。

また、調査結果の一部は以下でも紹介しております。

ニュースリリース『ライフデザイン白書 2015年』の概要 2015年7月

<http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/pdf/ldi/2015/news1507.pdf>

《「今後の生活に関するアンケート」の概要》

調査対象	全国の満18～69歳の男女個人
調査実施期間	2015年1月29日～30日
抽出方法	調査機関の登録モニター約118万人から国勢調査に準拠して地域（10エリア）×性・年代×未既婚別にサンプルを割付
調査方法	インターネット調査
有効回答数	7,256サンプル
調査機関	株式会社マクロミル

《回答者の主な属性》

(単位:%)

性別	男性	49.9
	女性	50.1
年代	29歳以下	19.1
	30代	21.2
	40代	19.6
	50代	19.0
	60代	21.2

心配ごとや悩みごとを聞いてくれる人

「末子が未就学」の女性では交流の幅が特に広い

図表1 心配ごとや悩みごとを聞いてくれる人(性・ライフステージ別)〈複数回答〉

(単位：%)

	親族						友人・知人										平均回答項目数
	配偶者	子ども	自分の親	配偶者の親	兄弟姉妹	その他の親族	親族合計	学校・学生時代の友人(同窓生含む)	趣味や習いごとを通しての友人	配偶者を通じての友人	子どもを通じての友人	職場や仕事関係の人(元同僚含む)	地域や近所の人	その他の個人的友人	友人・知人合計	誰もいない	
【男性】																	
独身(39歳以下)	0.0	0.0	54.6	0.0	21.4	9.1	57.5	30.2	8.0	0.0	0.0	16.0	5.2	15.1	46.1	25.6	1.6
夫婦のみ(39歳以下)	83.1	0.0	44.1	17.4	18.7	7.1	90.8	22.9	4.8	2.1	0.0	22.5	1.6	9.0	36.5	6.9	2.3
末子が未就学	76.6	7.6	36.6	12.3	17.0	6.6	86.6	24.2	4.0	2.2	3.1	20.1	3.4	6.2	37.6	9.6	2.2
末子が小・中学生	67.9	12.6	28.6	10.5	11.1	3.2	75.8	15.1	5.3	1.7	2.6	20.9	3.0	6.7	34.6	17.3	1.9
末子が高校・大学生	67.6	13.3	16.9	7.2	14.3	6.0	75.5	13.8	1.3	0.5	0.3	16.3	2.1	7.0	31.0	15.3	1.7
末子が就学終了	71.3	19.5	6.3	2.8	14.7	5.6	77.6	9.4	2.7	1.0	0.3	10.5	3.9	8.8	27.8	15.5	1.6
独身(40歳以上)	0.0	0.0	26.9	0.0	23.5	6.0	38.4	12.3	6.0	0.0	0.0	12.9	4.6	20.2	38.9	37.3	1.1
夫婦のみ(40歳以上)	83.5	0.0	22.3	8.6	14.4	4.1	86.2	14.2	3.1	2.9	0.0	13.7	2.3	8.9	30.1	9.5	1.8
【女性】																	
独身(39歳以下)	0.0	0.0	62.4	0.0	32.6	12.7	68.8	54.8	13.1	0.0	0.0	26.3	2.5	25.1	72.5	9.2	2.3
夫婦のみ(39歳以下)	83.0	0.0	68.1	14.9	36.3	10.9	91.4	44.5	6.3	3.2	0.0	31.8	1.8	19.4	62.6	3.2	3.2
末子が未就学	78.3	12.4	65.5	20.0	41.3	10.5	93.8	46.9	5.2	8.3	28.5	24.7	15.3	13.4	69.5	2.4	3.7
末子が小・中学生	60.5	38.3	56.0	10.1	26.6	6.8	89.8	33.5	7.6	3.5	35.3	19.7	12.6	19.5	64.1	2.5	3.3
末子が高校・大学生	55.7	51.2	27.1	4.6	23.8	3.9	82.2	24.4	11.3	0.9	18.4	16.2	10.0	17.3	54.9	7.2	2.6
末子が就学終了	57.0	61.8	14.6	2.1	32.3	10.1	87.0	22.1	14.7	1.5	11.2	14.5	11.7	20.8	55.9	4.9	2.7
独身(40歳以上)	0.0	0.0	38.2	0.4	33.0	14.2	56.7	24.2	13.4	0.4	0.0	18.7	4.4	34.7	61.2	16.8	1.8
夫婦のみ(40歳以上)	79.7	0.0	33.6	6.7	26.4	8.2	87.3	30.4	11.0	4.8	0.0	18.2	4.3	24.9	56.4	4.4	2.5

注:ライフステージごとに、「親族」「友人・知人」の中で最も割合が高かった数値を太字網掛けで表示

「心配ごとや悩みごとを聞いてくれる人」についてみたところ、全体的に「友人・知人」より「親族」に該当する項目をあげる割合が高いことがわかりました(図表1)。

特に「末子が未就学」の女性では親族に該当する項目のいずれかをあげた「親族合計」で93.8%を占めています。「末子が未就学」の女性では、「配偶者の親」「兄弟姉妹」「地域や近所の人」などをあげた割合が他のライフステージに比べて最も高くなっていました。

また、男女ともに、ライフステージが変化するにつれて「配偶者」をあげる人は減少し、「末子が就学終了」となると再び上昇に転じますが、女性では男性ほど上昇せず、夫婦間で温度差がある様子がうかがえます。「末子が就学終了」の女性では、「子ども」が「配偶者」を上回っており、子どもが母親の心配ごとや悩みごとを聞いてくれる人になるようです。

一方、「友人・知人」についてみると、「友人・知人合計」は全体的に男性より女性で回答が多く、特に「独身(39歳以下)」の女性で72.5%と最多でした。

「誰もいない」とする人が最も多かったのは「独身(40歳以上)」の男性(37.3%)でした。

助言やアドバイスをしてくれる人

「子どもを通じての友人」は「末子が小・中学生」の女性が多い

図表2 助言やアドバイスをしてくれる人(性・ライフステージ別)＜複数回答＞

(単位：%)

	親族						友人・知人										誰もない	友人・知人合計	平均回答項目数
	配偶者	子ども	自分の親	配偶者の親	兄弟姉妹	その他の親族	親族合計	学校・学生時代の友人(同窓生含む)	趣味や習いごとを通じての友人	配偶者を通じての友人	子どもを通じての友人	職場や仕事関係の人(元同僚含む)	地域や近所の人	その他の個人的友人	友人・知人合計				
【男性】																			
独身(39歳以下)	0.0	0.0	48.5	0.0	19.1	9.6	53.7	28.9	9.3	0.0	0.0	24.6	5.7	15.0	50.4	26.5	1.6		
夫婦のみ(39歳以下)	70.6	0.0	40.2	21.4	20.8	11.1	82.1	21.1	8.7	2.3	0.0	34.3	4.0	12.0	47.2	7.9	2.5		
末子が未就学	54.8	6.5	45.8	23.0	17.6	6.9	74.3	21.9	5.7	3.8	4.0	30.9	5.6	7.0	44.0	12.7	2.3		
末子が小・中学生	49.5	9.2	37.6	19.2	14.9	7.5	70.8	15.7	5.6	3.7	5.3	33.1	6.1	8.9	45.5	15.8	2.2		
末子が高校・大学生	51.9	10.4	20.0	9.9	14.3	6.3	63.0	13.8	4.8	2.9	1.8	26.3	6.2	6.7	37.4	22.1	1.8		
末子が就学終了	52.2	15.1	6.5	4.2	15.5	7.4	65.6	11.1	6.3	1.9	1.4	18.8	7.1	9.4	37.4	19.5	1.6		
独身(40歳以上)	0.0	0.0	23.7	0.3	18.7	6.7	34.0	10.6	6.8	0.2	0.0	16.9	4.5	17.5	40.0	41.2	1.1		
夫婦のみ(40歳以上)	65.5	0.0	23.6	12.5	18.4	7.0	75.0	16.5	6.3	3.0	0.0	23.6	4.3	6.7	36.0	14.5	1.9		
【女性】																			
独身(39歳以下)	0.0	0.0	58.0	0.0	30.0	14.4	65.7	47.5	12.2	0.0	0.0	33.6	3.5	21.8	69.7	12.1	2.2		
夫婦のみ(39歳以下)	73.8	0.0	69.7	23.6	30.1	11.7	89.6	33.9	5.3	4.3	0.0	29.7	4.5	14.8	54.9	4.9	3.0		
末子が未就学	64.0	7.3	67.7	25.3	33.1	10.5	90.1	36.6	4.3	5.8	23.1	21.0	11.5	10.1	59.9	4.1	3.2		
末子が小・中学生	46.7	21.2	49.8	13.3	22.1	6.2	82.6	23.4	6.5	2.6	26.2	19.7	9.7	13.1	55.9	6.4	2.6		
末子が高校・大学生	49.5	34.1	24.5	8.4	22.5	5.8	75.3	21.3	13.3	2.6	15.7	19.7	8.7	16.5	54.8	8.9	2.4		
末子が就学終了	49.6	45.1	13.7	2.7	24.7	7.4	77.5	17.5	13.6	1.5	7.8	15.3	10.5	20.2	53.1	7.9	2.3		
独身(40歳以上)	0.0	0.0	31.6	0.0	27.8	14.0	49.9	20.5	14.6	0.8	0.0	24.4	5.8	31.1	58.0	22.6	1.7		
夫婦のみ(40歳以上)	68.8	0.0	32.2	10.3	23.8	7.6	81.7	22.9	9.2	3.9	0.0	17.3	2.4	19.3	49.7	9.1	2.2		

注:ライフステージごとに、「親族」「友人・知人」の中で最も割合が高かった数値を太字網掛けで表示

「助言やアドバイスをしてくれる人」についてみると、「末子が未就学」の女性で「親族合計」(90.1%)が他のライフステージと比べて最も高く、「友人・知人合計」(59.9%)の割合も「独身(39歳以下)」の女性に次いで多くなっていました(図表2)。

女性では助言・アドバイスをしてくれる人として、「子ども」「自分の親」「兄弟姉妹」をあげた人が男性より多くなっています。また、「末子が小・中学生」の女性では「子どもを通じての友人」をあげた人が多いことがわかりました。

なお、「独身(40歳以上)」の男性の41.2%が「誰もない」としており、40歳以上の独身男性の5人に2人は助言やアドバイスをしてくれる人を持っていないとしています。

能力や努力を評価してくれる人

「独身(40歳以上)」の男性の46.0%が「誰もいない」と回答

図表3 能力や努力を評価してくれる人(性・ライフステージ別)〈複数回答〉 (単位: %)

	親族						友人・知人										誰もいない	平均回答項目数
	配偶者	子ども	自分の親	配偶者の親	兄弟姉妹	その他の親族	親族合計	学校・学生時代の友人(同窓生含む)	趣味や習いごとを通じての友人	配偶者を通じての友人	子どもを通じての友人	職場や仕事関係の人(元同僚含む)	地域や近所の人	その他の個人的友人	友人・知人合計			
【男性】																		
独身(39歳以下)	0.0	0.0	39.0	0.0	15.9	8.0	43.2	24.2	8.4	0.0	0.0	26.0	4.8	11.8	48.0	32.8	1.4	
夫婦のみ(39歳以下)	69.6	0.0	35.0	21.3	14.0	6.2	76.4	14.2	3.1	2.9	0.0	32.9	2.2	9.4	41.9	10.4	2.1	
末子が未就学	56.4	10.4	27.8	17.5	10.7	6.0	68.7	15.9	4.6	3.3	3.0	33.7	4.2	4.9	44.2	15.8	2.0	
末子が小・中学生	50.4	17.2	24.8	14.1	10.0	5.2	59.9	12.2	5.2	2.2	1.8	36.2	5.1	8.2	45.7	21.7	1.9	
末子が高校・大学生	49.4	20.6	15.9	10.4	10.2	6.5	60.4	11.7	3.6	2.2	1.4	31.3	5.4	5.8	40.9	21.7	1.7	
末子が就学終了	55.3	25.3	6.9	5.4	10.8	5.1	63.4	9.3	5.4	1.7	0.9	22.7	8.0	8.0	38.0	20.9	1.6	
独身(40歳以上)	0.0	0.0	15.7	0.0	13.5	4.6	23.1	7.8	8.6	0.0	0.0	21.6	3.6	14.6	40.7	46.0	0.9	
夫婦のみ(40歳以上)	66.3	0.0	19.3	11.5	10.1	4.9	71.3	12.4	3.9	3.0	0.0	25.9	5.4	6.6	34.7	17.5	1.7	
【女性】																		
独身(39歳以下)	0.0	0.0	49.1	0.0	22.3	15.7	54.9	37.9	13.5	0.0	0.0	37.7	4.8	17.2	67.0	16.2	2.0	
夫婦のみ(39歳以下)	72.3	0.0	47.4	15.4	19.9	8.0	81.9	22.1	4.5	1.6	0.0	28.6	2.0	10.6	44.7	8.2	2.3	
末子が未就学	61.0	13.9	44.9	17.9	24.6	7.4	82.5	26.2	5.0	4.1	14.0	22.4	6.7	8.5	49.6	10.2	2.6	
末子が小・中学生	38.6	31.1	31.0	12.1	13.6	5.3	66.7	16.7	7.2	2.8	16.1	23.9	7.2	8.9	48.8	18.0	2.1	
末子が高校・大学生	40.6	35.0	19.8	5.2	13.8	3.6	61.9	14.6	11.0	1.7	11.9	21.7	5.3	13.2	48.3	17.7	2.0	
末子が就学終了	46.4	45.2	13.6	2.8	19.6	7.9	70.7	15.0	14.0	2.0	7.5	17.8	10.3	16.5	50.5	12.4	2.2	
独身(40歳以上)	0.0	0.0	26.4	0.0	17.9	11.3	38.9	18.2	13.4	0.0	0.0	33.0	2.8	24.1	57.2	25.9	1.5	
夫婦のみ(40歳以上)	65.3	0.0	29.6	7.1	21.2	6.5	73.8	19.2	8.7	4.0	0.0	19.8	3.5	18.1	46.5	12.6	2.0	

注: ライフステージごとに、「親族」「友人・知人」の中で最も割合が高かった数値を太字網掛けで表示

「能力や努力を評価してくれる人」についてみたところ、全体的に女性では男性より「親族合計」の値が高いですが、これは女性で「自分の親」をあげた人が多いことが影響していると考えられます(図表3)。また、女性では「末子が小・中学生」となると、「配偶者」「自分の親」をあげる人が急激に少なくなり、「子ども」が自分の能力や努力を評価してくれる人と認識される傾向があるようです。

一方で、男性は女性より就業者が多いこともあり、男性では「友人・知人」の中で「職場や仕事関係の人(元同僚含む)」をあげた人が女性より多くなっていました。それにもかかわらず、「友人・知人合計」でいずれのライフステージでも女性が男性を上回っているのは、女性では「趣味や習い事を通じての友人」「子どもを通じての友人」などで男性を上回り、対人関係の幅が広い点が影響しているものと推察されます。

なお、「誰もいない」とする割合はやはり「独身(40歳以上)」の男性で多く、46.0%を占めました。これに「独身(39歳未満)」の男性が32.8%で続いています。

一緒に余暇や休日を楽しむ人

「配偶者」をあげたのは「末子が就学終了」の男性で 68.7%、女性で 55.5%

図表4 一緒に余暇や休日を楽しむ人(性・ライフステージ別)＜複数回答＞ (単位：%)

	親族						親族合計	友人・知人							友人・知人合計	誰もいない	←平均回答項目数→
	配偶者	子ども	自分の親	配偶者の親	兄弟姉妹	その他の親族		学校・学生時代の友人(同窓生含む)	趣味や習い事を通じての友人	配偶者を通じての友人	子どもを通じての友人	職場や仕事関係の人(元同僚含む)	地域や近所の人	その他の個人的友人			
【男性】																	
独身(39歳以下)	0.0	0.0	26.0	0.0	17.0	5.8	32.4	42.4	13.9	0.0	0.0	13.3	3.7	21.9	60.4	27.4	1.4
夫婦のみ(39歳以下)	89.0	0.0	14.3	10.5	10.8	2.4	89.4	21.8	7.3	5.2	0.0	12.8	2.6	10.2	36.5	6.9	1.9
末子が未就学	79.7	80.7	14.1	11.9	11.6	4.6	92.2	18.8	10.8	8.7	6.1	10.2	3.6	8.2	31.2	5.1	2.7
末子が小・中学生	70.5	72.7	9.3	5.2	4.1	2.4	85.7	12.4	11.3	3.5	6.9	9.2	3.9	7.9	31.6	8.1	2.2
末子が高校・大学生	64.9	42.4	6.7	5.7	4.8	2.9	71.9	12.1	9.7	3.3	4.1	10.4	5.4	7.7	30.3	17.7	1.8
末子が就学終了	68.7	30.7	2.8	2.3	5.1	4.7	75.0	12.8	10.2	4.2	2.3	12.6	6.2	11.0	34.7	13.7	1.7
独身(40歳以上)	0.0	0.0	12.9	0.0	7.2	2.9	16.9	13.6	12.7	0.0	0.0	10.0	3.5	25.2	46.3	42.7	0.9
夫婦のみ(40歳以上)	83.1	0.0	11.8	7.6	8.4	5.1	84.5	13.6	10.9	5.6	0.0	9.0	5.9	9.1	34.7	8.8	1.7
【女性】																	
独身(39歳以下)	0.0	0.0	51.0	0.0	37.4	12.6	60.0	59.8	19.1	0.0	0.0	17.7	2.8	28.9	77.9	10.6	2.3
夫婦のみ(39歳以下)	88.8	0.0	33.2	9.7	23.3	7.3	93.1	37.9	7.1	9.5	0.0	19.1	1.6	19.1	55.3	3.1	2.6
末子が未就学	81.2	82.8	31.4	9.2	21.0	5.7	98.1	31.5	4.9	8.7	17.0	10.0	4.6	9.0	49.4	1.0	3.2
末子が小・中学生	60.0	83.0	18.1	5.1	9.1	3.6	91.1	19.3	8.2	3.0	20.1	8.2	5.4	12.2	44.0	3.5	2.6
末子が高校・大学生	56.3	57.2	11.5	2.2	11.7	2.1	80.5	20.8	13.6	1.3	14.1	10.3	5.7	19.2	51.7	7.1	2.3
末子が就学終了	55.5	49.4	7.5	1.7	15.6	5.3	80.2	18.9	16.4	3.1	10.4	12.7	10.5	21.1	53.4	6.3	2.3
独身(40歳以上)	0.0	0.0	26.8	0.4	21.5	8.8	40.7	26.8	19.3	0.9	0.0	17.3	3.4	38.3	67.5	19.2	1.6
夫婦のみ(40歳以上)	86.0	0.0	19.8	3.3	14.6	3.1	87.3	23.5	12.1	5.7	0.0	12.6	2.8	17.9	47.2	7.4	2.0

注:ライフステージごとに、「親族」「友人・知人」の中で最も割合が高かった数値を太字網掛けで表示

「一緒に余暇や休日を楽しむ人」についてみると、女性の「末子が未就学」と「夫婦のみ(39歳以下・40歳以上)」で「親族合計」の値が高い点は他と同様ですが、「末子が未就学」の男性でも「親族合計」の値が9割を超えて高いことがわかりました(図表4)。これは、末子が未就学の時期ということで、子どもが小さいと家族で余暇や休日を過ごす機会が多いことによるものと思われます。実際に、「末子が未就学」の男性で「子ども」をあげた人は80.7%にのぼりました。ライフステージがあがるにつれて、「子ども」をあげる割合は下がります。

「末子が小・中学生」の女性では、「親族」としては「子ども」を、「友人・知人」としては「子どもを通じての友人」をあげた人が最も多くなっていました。

子どもが手を離れる時期である「末子が就学終了」の男性では68.7%が「配偶者」をあげていますが、同時期の女性で「配偶者」を上げる人は55.5%にとどまり、「子ども」や「学校・学生時代の友人」「趣味や習い事を通じての友人」「その他の個人的友人」などをあげた割合が男性に比べて高いなど、この時期の女性のつきあいが男性より幅広い様子がうかがえます。

「誰もいない」とする割合は、「独身(40歳以上)」の男性で42.7%を占めました。

今後、人間関係やつきあいを深めていきたい人

「親族」に加え、「友人・知人」をあげた人も多い
「独身(40歳以上)」の男性の45.5%が「誰もいない」と回答

図表5 今後、人間関係やつきあいを深めていきたい人(性・ライフステージ別)＜複数回答＞

(単位：%)

	親族							友人・知人										誰もいない	平均回答項目数
	配偶者	子ども	自分の親	配偶者の親	兄弟姉妹	その他の親族	親族合計	学校・学生時代の友人(同窓生含む)	趣味や習いごとを通じての友人	配偶者を通じての友人	子どもを通じての友人	職場や仕事関係の人(元同僚含む)	地域や近所の人	その他の個人的友人	友人・知人合計				
【男性】																			
独身(39歳以下)	0.0	0.0	26.9	0.2	18.6	9.2	32.4	36.6	14.6	0.2	0.0	20.3	10.0	22.9	58.9	30.3	1.6		
夫婦のみ(39歳以下)	68.3	0.0	29.1	35.2	22.8	20.0	79.5	27.3	14.2	16.0	0.0	28.6	15.0	18.8	51.5	12.5	3.0		
末子が未就学	55.7	49.7	27.1	27.0	23.1	16.0	68.1	27.5	14.7	14.7	16.2	26.8	18.9	12.7	49.5	18.4	3.3		
末子が小・中学生	48.2	40.3	23.1	20.0	17.2	11.7	58.9	24.0	16.7	12.1	12.6	26.3	18.2	15.0	51.3	21.2	2.9		
末子が高校・大学生	43.0	30.9	9.8	8.4	10.8	7.2	51.6	18.8	15.0	6.1	6.6	21.3	17.5	14.8	47.1	23.6	2.1		
末子が就学終了	42.7	24.5	3.6	5.7	13.6	10.7	51.6	17.8	11.9	7.2	5.1	19.7	20.3	14.6	49.6	23.9	2.0		
独身(40歳以上)	0.0	0.0	9.4	0.2	10.4	7.9	17.2	13.2	12.9	0.7	0.0	13.5	9.0	27.3	47.0	45.5	1.0		
夫婦のみ(40歳以上)	58.1	0.0	16.2	16.0	15.7	11.2	65.7	20.5	15.5	9.8	0.0	15.2	11.5	16.6	43.6	17.5	2.1		
【女性】																			
独身(39歳以下)	0.0	0.0	39.9	0.0	31.3	15.2	46.5	55.3	18.9	0.0	0.0	26.9	8.8	27.9	75.4	15.0	2.2		
夫婦のみ(39歳以下)	66.3	0.0	43.1	36.0	33.4	22.0	80.6	34.4	10.6	19.5	0.0	20.5	10.5	21.7	58.9	8.5	3.2		
末子が未就学	57.6	52.5	42.9	28.0	35.0	17.8	77.6	40.9	11.5	15.5	38.9	23.6	26.7	19.6	68.8	8.1	4.1		
末子が小・中学生	39.2	51.7	26.5	10.4	21.7	9.0	65.4	26.4	11.0	5.1	29.1	18.2	14.1	20.7	61.5	12.5	2.8		
末子が高校・大学生	37.0	38.9	18.6	6.6	20.3	6.2	58.1	28.1	16.6	2.4	18.1	12.9	12.8	21.9	63.5	16.9	2.4		
末子が就学終了	39.6	45.4	10.3	3.2	25.6	10.1	63.4	23.9	19.7	3.9	11.4	14.1	21.6	24.4	65.6	12.1	2.5		
独身(40歳以上)	0.0	0.0	22.8	0.0	23.6	12.6	35.8	24.1	19.6	0.4	0.0	18.1	8.5	39.5	63.4	26.4	1.7		
夫婦のみ(40歳以上)	63.9	0.0	27.6	13.2	25.8	12.3	73.7	29.6	17.8	9.5	0.0	19.7	10.4	26.4	64.4	9.4	2.6		

注：ライフステージごとに、「親族」「友人・知人」の中で最も割合が高かった数値を太字網掛けで表示

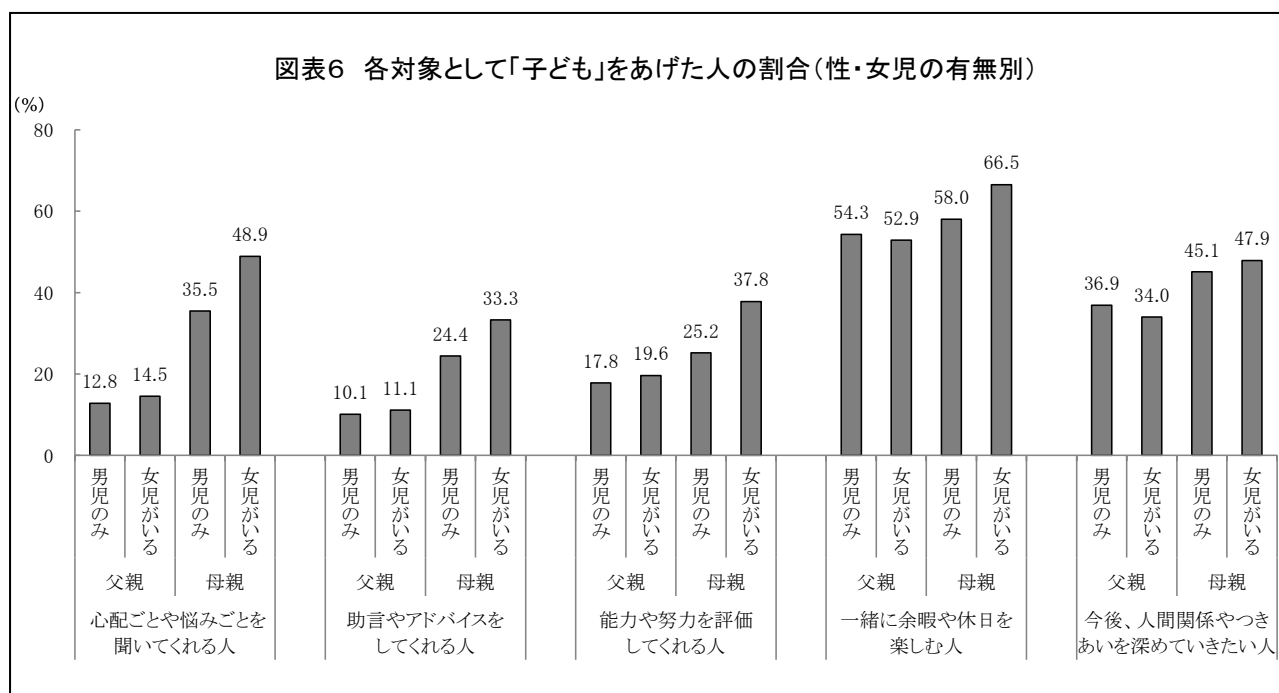
最後に、「今後、人間関係やつきあいを深めていきたい人」についてみます。これまでの結果では、「親族」が「友人・知人」を大きく上回るライフステージが多かったですが、ここでは両者の差が小さい、もしくは「友人・知人」が「親族」を上回るライフステージが女性で多いことが特徴です(図表5)。現状では親族との交流が強いものの、今後は友人・知人とも人間関係やつきあいを深めていきたいとの意識があるようです。

特に「末子が高校・大学生」「末子が就学終了」の女性では「友人・知人合計」の値が高く、「親族合計」を上回っています。一方で、同時期を含む男性は、独身以外では「友人・知人合計」より「親族合計」のほうが若干多くなっていました。

「誰もいない」とする割合は、「独身(40歳以上)」の男性で45.5%を占めました。

各対象として「子ども」をあげた人の割合

女兒が一人でもいる母親は「子ども」をあげる人が多い



「心配ごとや悩みごとを聞いてくれる人」「能力や努力を評価してくれる人」「助言やアドバイスをしてくれる人」「一緒に余暇や休日を楽しむ人」「今後、人間関係やつきあいを深めていきたい人」それぞれの結果について、子どものいる人に対し、女兒の有無別（子どものなかに少なくとも女兒が1人いるか、男児しかないかの別）に分析を行いました。その結果、女兒が少なくとも1人以上いる母親では、女兒がいない母親よりも「心配ごとや悩みごとを聞いてくれる人」「助言やアドバイスをしてくれる人」「能力や努力を評価してくれる人」「一緒に余暇や休日を楽しむ人」として「子ども」をあげる割合が高いとの結果を得ました（図表6）。

これに対し、父親では「子ども」をあげる割合に子どもの性別による差はみられませんでした（「男児の有無別」については図表省略）。家庭における女兒の有無が、子どもが成長した時期の夫婦関係や親子関係のバランスに影響を及ぼす可能性が示唆される結果です。

《研究員のコメント》

以上の結果から、いくつかの特徴や傾向がみられました。以下、「子どもが就学終了する時期の夫婦間ギャップ」「母親と子どもの関係」「独身男性の対人関係」の3点から考察します。

まず、子どもがいる人のうち、子どもが就学終了する時期の夫婦の関係についてみます。男性は子どもが小さい頃は「職場や仕事関係の人」という交流の対象者がいますが、子どもが就学終了する時期は仕事も引退に近づく時期と重なることもあり、交流の対象者が配偶者に集約される傾向があるようです。一方で、女性は男性に比べて多様な対人関係を持っています。特に子どものいる女性は「子どもを通じての友人」や「地域や近所の人」「趣味や習い事を通じての友人」などとの関係を育んでいるケースが多く、男性に比べて交流する相手が幅広いといえます。これにより、子どもが独立して仕事も引退する時期に、夫が妻との交流を積極的に行おうとしても、妻は既に多様な対人関係を持っている可能性が示唆されました。

さらに、子どもの年齢が上がった時期の親子関係にも差が見られました。女性は就学終了後の子どもに心配ごとや悩みごとを聞いてもらったり、一緒に余暇や休日を楽しんだりする傾向がありますが、男性は女性に比べてそうした傾向は強くありません。特に女兒が少なくとも1人以上いる母親では、「子ども」をあげた割合が高いことがわかりました。例えば将来的に夫が妻を精神的な支えと考えているのに対して妻は夫より娘を頼りにしていたり、何かと母娘で密着したりなど、家庭に女兒がいるか否かによって、子どもが成長した時期の夫婦関係や親子関係が左右される可能性が示唆されました。

また、独身者についてみると、その対人関係の幅は特に40歳以上の男性で低いことがわかりました。いずれの項目においても、40歳以上の独身男性では「誰もいない」とする人が多く、平均回答項目数も少なくなっていました。

今後、独居者が増加するといわれていますが、単なる「1人暮らし」ではなく、日々交流したり精神的に依存したりする人を持たずに、孤独を感じる人の増加が懸念されます。物理的に支えてくれる人がいない不自由さのみならず、精神面で支えがないことは、QOL (Quality of Life : 生活の質) の観点からみて重要な課題といえるでしょう。

1人暮らししか誰かと同居しているかにかかわらず、孤独感のある生活となる可能性は誰にでもあります。自分を精神面で支えてくれる対人関係の構築は、一朝一夕でできるものではありません。長期化する高齢期を見据え、精神的な支えとなる対人関係を構築するにあたっては、まずは自分が心配ごとや悩みごとを「聞く人」、能力や努力を「評価する人」、助言やアドバイスを「求められる人」としてどうあるべきかを考え直し、周囲から一緒に余暇や休日を「楽しみたい人」「今後、人間関係やつきあいを深めていきたい人」と認識されるように、地道な行動を重ねなければならないのではないのでしょうか。

(研究開発室 上席主任研究員 宮木由貴子)

《書籍のご案内》

【編：第一生命経済研究所】 『ライフデザイン白書 2015』

2015年7月に『ライフデザイン白書 2015』（編：第一生命経済研究所、発行：ぎょうせい）を発売しました。本書は、第一生命経済研究所が独自に実施している全国規模のアンケート調査をもとに、生活者の視点で生涯設計を考え、人々の生活実態や生活意識を時系列で分析したものです。今回の白書も、図表を多く取り入れ、よりわかりやすく見やすい内容にしています。

高校や大学における社会科・家庭科・ライフデザイン学科の学習教材であると共に、記事などの裏づけ資料としてもご活用できる一書となっています。皆さまの生活に役立つ内容が盛り込まれていますので、ぜひご一読願います。

